

令和3年度 県央地区小・中学校教育課程研究会 提案資料

部会名 音 楽

神奈川県小・中学校教育課程研究会研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

音楽のよさ、美しさを味わい、他者との協働の中で学びが深まる指導の工夫

地区名 県央地区

所属校 座間市立東中学校

提案者 柴原 香里

所属校 座間市立南中学校

発表者 岩撫 千鶴

※児童・生徒の写真・ワークシート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

はじめに

○テーマ設定の理由

本校の生徒は、活発に音楽活動に取り組む姿勢がある生徒が多い。歌唱については合唱コンクールや卒業式などの行事に根ざしていることもあり、合唱委員やパートリーダーを中心に向上心を持って取り組むことができる。器楽については中学校で初めてアルトリコーダーやクラシックギター、箏に挑戦しているが、苦手意識がある生徒もいるものの、お互いに教え合いながら取り組む雰囲気をつくることができる。しかし、創作（リズムづくりや記譜も含む）については、あまり経験がない生徒が多い。1年生1学期に四分音符、八分音符、四分休符、八分休符を使ったリズム創作とリズム譜の記譜や、抑揚を生かした旋律づくりでは、抑揚と音高の関係性や五線譜への記譜に取り組んだが、いずれも音符や休符の名前や意味を捉えることや記譜を正しく行うことに時間を使う活動になってしまい、その楽しさを味わう活動には至らなかった。

創作の授業を、生徒が苦手意識を持たず、「楽譜を正しく書けること」を目標にするのではなく、これまでよりも「音を楽しむ」活動にしたいという私自身の思いがあったが、実際に授業を行うとなると、難しさを感じていた。

今回、研究の機会をいただき、生徒が創作活動に親しみ、楽しみながら取り組めるような題材をテーマにしていきたいと思った。

研究内容

○仮説

①音楽の諸要素や民謡のよさ、特徴について知ることで、創作活動における興味・関心が高まり、表現したいイメージを旋律に表すことができるのではないかと考えた。

民謡を題材にした授業はこれまで取り組んでおらず、民謡のよさや音楽の諸要素の働きを創作活動に生かすために、「金毘羅船々」と「阿波よしこの節」を鑑賞する。その上で民謡の創作、作品発表でまとめとする。民謡は、普段生徒に馴染みのあるものではないものの、昔から人々の生活とともにある。そこで、仕事歌や祭りの歌といった分類やはやしことば、民謡音階について理解し触れることで、生徒が興味を持って創作活動に参加することができるのではないかと考えた。生徒は、1学期に音符の書き方や拍子、リズム譜の書き方については学習しているので、記譜についてはスムーズに取り組めるものと考えている。

②創作活動で使用する楽器を工夫することで、どの生徒も苦手意識を持たず、取り組みやすくなるのではないかと考えた。

創作で扱う楽器については、当初アルトリコーダーを考えていたが、まだ運指がおぼつかないことと、新型コロナウイルスの影響もあり授業で扱うことができず、代わりに2つの班に1つ電子ピアノを使用した。階名を書いたシールを貼ることで、鍵盤に馴染みのない生徒にも扱うことができると考えている。

③創作した民謡の発表会を行い、他の班の作品を味わって鑑賞し多様な価値観に触れることで、鑑賞の記録(感想)を記述する際に音楽の諸要素に触れて記録するなど、これまでよりも豊かに表現できるのではないかと考えている。

生徒はこれまでも鑑賞の授業で最後に鑑賞の記録を書いてきたが、作品の特徴、美しさ、時代背景について表現する時に「どのように美しいか」「その作品の特徴がどう作品の中で生かされているか」など、表現豊かに記述したり発表したりできる生徒は少なかった。今回の授業で、音楽の諸要素や民謡の特徴について触れたあと創作し発表まで行うことで、これまでよりも曲にふさわしい表現方法について考えたり、感受したことを価値判断して表現したりすることができるのではないかと考えている。

題材「日本の民謡について知り、特徴やよさを生かして創作をしよう」

～指導の流れについて～

第1時

民謡の音階や分類などの特徴や、音楽の諸要素についてパワーポイントとワークシート(プリント①)で学習した後①「阿波よしこの節」と②「金毘羅船々」を鑑賞した。

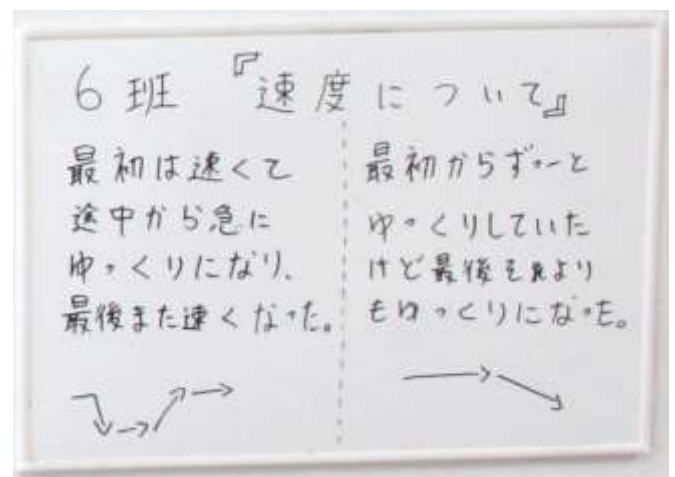
はじめは諸要素について触れ、既習曲を用いて諸要素の分類について整理し、その後民謡の特徴に触れた。

2つの民謡を、諸要素に着目して鑑賞することを目標にし、班ごとに着目する諸要素を分担した(強弱は1班

曲想は2班など)。鑑賞後聴き取れたことを班ごとにホワイトボードに記入し、教室前に貼り出し全体で共有した。

「阿波よしこの節」では、踊りのリズムに体を揺らす生徒も見られた。「金毘羅船々」では、曲中に何度も繰り返される「一度回れば」というはやしことばを一緒に口ずさむ生徒も見られた。

鑑賞するポイントを各班で1つに絞ったことで、聴き取りやすかったようである。また、全体で共有したときに、音楽は、様々な諸要素が合わさってできているということに気付けたようである。



第2時

前時の鑑賞をもとに、創作活動に入るため、3～4人グループを組んだ。グループ構成は、基本的には席順だが、できるだけリーダー性があり、音楽が比較的得意な生徒がグループの中に1人はいるよう配慮した。「私の班の民謡創作計画書」(プリント②)をもとに、班で創作したい民謡のイメージを十分に話し合い共有した。

①【私の班の民謡創作計画書】・・・それぞれ、イメージに近いものに○をつけたり、話し合っ

たことを書き込みましょう。

民謡の分類	祭りの音楽	祝い歌	仕事歌	踊り歌	楽しみのための歌
どんな雰囲気にするか	元気な感じ	やる気になる感じ	軽やかな感じ	静かな感じ	
はやしことば	(例) チョイチョイ、ヨイヨイヨイ、ドッコイショ、シュラシュシュ、ナンチャラホイ 【(ア) ヨイヨイヨイ(シフ) ユルユル】				
速度や強弱で、工夫したいこと	(例) 始めをゆっくり、途中から徐々に強くし最後を速く、一番強くすることで、スピード感を表現した。 速度：ゆっくり 強弱：場前たまって変える(はれ言葉を一息強らう) 工夫：はれことば				

速度や強弱で、工夫したいこと (例) 始めをゆっくり、途中から徐々に強くし最後を速く、一番強くしてから、スピード感を表現した。始めはと弱く、途中から強くなる。最後と強くなる。

①【私の班の民謡創作計画書】・・・それぞれ、イメージに近いものに○をつけたり、話し合っ

たことを書き込みましょう。

民謡の分類	祭りの音楽	祝い歌	仕事歌	踊り歌	楽しみのための歌
どんな雰囲気にするか	元気な感じ	やる気になる感じ	軽やかな感じ	静かな感じ	
はやしことば	(例) チョイチョイ、ヨイヨイヨイ、ドッコイショ、シュラシュシュ、ナンチャラホイ 【(ア) ノリノリ × 4】				
速度や強弱で、工夫したいこと	(例) 始めをゆっくり、途中から徐々に強くし最後を速く、一番強くすることで、スピード感を表現した。 始めは普通だが最後に行くにつれ、強く速く大きくなる。				

次にリズムパターンを提示した。生徒の能力や、リズムの理解度を考慮し、3パターン用意した。創作したい民謡のイメージに近いリズムパターンを選べるように、ゆったりした感じのリズムや、動きのあるリズムをパターンに加えた。今回は1人1小節を担当し、4人班でつなげ4小節の民謡を作る。民謡創作計画書を参考に、班で創作する民謡のイメージに近いリズムパターンを選んだ。リズムパターンに慣れさせるために何度か手拍子で叩いたり、「タ」や「タン」といった言葉で表現したり、口ずさみながらも覚えられるようにした。

「リズムパターン」

A: 4/4 time signature. Notes: quarter, quarter, eighth, eighth, quarter, quarter, eighth, eighth.

B: 4/4 time signature. Notes: quarter, quarter, eighth, eighth, quarter, quarter, eighth, eighth.

C: 4/4 time signature. Notes: quarter, quarter, eighth, eighth, quarter, quarter, eighth, eighth.

どのリズムパターンを選ぶか迷っている生徒には「**B**だとゆったりした感じかな」「**C**だと音符が多くて賑やかで動きが多い感じだね」といったヒントを出し、根拠を持ってリズムパターンを選ぶことができるよう支援を行った。

リズムパターンを選んだら、音をつける活動に入った。今回は、より民謡の響きとして生徒がイメージしやすい「沖縄音階」を使用した。当初は個人が持っている、簡単に音を確認められるよう、アルトリコーダーの使用を考えていたが、新型コロナウイルスの流行で使用が難しくなり、2つの班に1台ピアノもしくは電子ピアノを割り当て使用した。鍵盤楽器に馴染みのない生徒も多数いることから、鍵盤に沖縄音階の階名の「ド、ミ、ファ、ソ、シ、ド」のシールを貼り、誰でも鍵盤で音を確認できるようにしたので、生徒は安心してピアノの周りに集まり活動を進められていた。

自分の選んだリズムパターンに音をつけることが終わったら、グループの中でつなげる順番を決め、順番に合わせて音の終わり方の工夫をした。内容としては、1小節目、3小節目担当の生徒は、続く感じをだすために、「ド」以外で終わる。2小節目、4小節目担当の生徒は、終わる感じを出すためにできるだけ「ド」で終わるといったことを伝えた。活動の中で、生徒から「先生、うまく旋律が続かなかつなげる順番を変えてもいいですか?」といった質問もあったので、「もちろん、自分たちの班が分かるようにしていれば、変更していいよ」と声をかけた。生徒は「あ、この順番がいいんじゃない?」や「なんかしっくりこないな」など、悩みながらも協力して活動を進めることができていた。

つなげる順番が決まったらリズム譜上に4小節目記入し、楽譜上に記入する「強弱」「速度」「はやしことば」について班で考えた。その際、自分の班の民謡創作計画書を見返し、創作したい民謡のイメージを再度班で確認し、そのイメージに近づけるような工夫をするよう話をした。生徒の中から「強弱等の記号が分からない」といった声があることを予測し、記号一覧が載っている教科書のページを示し、その中から選べるようにした。生徒は活動を進める中で、「祭りのための音楽で、だんだんもっと楽しい感じにしたいから、だんだん速くの記号を使おう」や「最後は落ち着いた感じで終わりたいから弱くしよう」「はやしことばやアクセントとして一番盛り上がるころにつけよう」「あえて曲の最初にはやしことばを入れて、強烈にインパクトを与えよう」という風に根拠をもって記号を選び、表現したい音楽に近づけようとしている姿を見ることができた。学習プリントの最後に「班で民謡の創作をして、学んだこと、気づいたことを書きましょう」という欄を設け、振り返りを行った。

〈創作をした感想～生徒の振り返りより〉

- ・みんなのリズムを合わせ、そのリズムにはやしことばを入れてより仕事歌に近づいてきたと思った。
- ・手をたたいたり、ジャンプをしたりして、踊り歌として面白く楽しい雰囲気へと改良をした。
- ・音を、ド、ミ、ファ、ソ、シに限定することで、沖縄っぽい感じになったことに驚いた。音の高さを変えたら一気に違う雰囲気になって本当に難しかった。

第3時

班で創作した民謡の仕上げを行い、発表に向けての準備を行った。班員4人のうち2人は電子ピアノの担当、2人ははやしことばを言う担当として練習を行った。前時に民謡ができ上がっていた班も実際に発表の練習をすると、「あれ?はやしことばこの場所に入れた方がいいな」「ここで最後盛り上がって終わった方がいいから、フォルテで終わろう」といったように、自分たちの目指す民謡のイメージに近づけようといった姿勢が見られた。

②選んだリズムパターンに民謡音階から選んだ音をつける。

②選んだリズムパターンに民謡音階から選んだ音をつける。

⑤班員がそれぞれ考えた装束を持ち回り、**班全員分の装束(書き写り)**

⑤班員がそれぞれ考えた装束を持ち回り、**班全員分の装束(書き写り)**

第4時

始め10分程を練習の時間にし、その後班ごとの発表を行った。発表を行う際、各班ごとに配付したホワイトボードに「班で創作した民謡の分類」と「工夫したところ」を書かせた。そして発表の際、始めにそれを読み上げ、聞いている他の班にも理解させた上で鑑賞ができるようにした。発表は、電子ピアノの担当がうまく弾けず何度かやり直す場面があったり、はやしことばの担当の生徒が恥ずかしくなってしまう声が小さくなってしまったりすることもあった。けれども、手拍子やジャンプなどの身体表現をする班や、はやしことばを勢いよく言う班、鑑賞をしている班から「頑張れー」という言葉が出たり、終わったあと自然と拍手が沸き上がったりと、温かい雰囲気の中で発表を行うことができた。

〈発表を終えて ～生徒の振り返りより～〉

- 一つひとつの曲に班の雰囲気があって楽しかった。はやしことばで曲全体のイメージが大きく変わった。
- 他の班を聞いて、変化や、曲調に合わせてはやしことばを選んだり、工夫がしてあるなど思った。
- 祭りなどの楽しい音楽のイメージにすると、最後が高い音じゃないと盛り上がらないな、ということについて班員と話し合って曲を作ることができた。
- 同じ音しか使っていないのに、曲想が似ている班やまったく違う班とかがあって面白いなど思った。
- 民謡は、誰にでも、なんのための歌か分かるからすごいなど思った。
- 班の人との関わりも深まってよかったと思った。

研究の成果と課題 (☆→成果 ★→課題)

○仮説①

音楽の諸要素や民謡のよさ、特徴について知ること、創作活動における興味・関心が高まり、表現したいイメージを旋律に表すことができるのではないか。

☆創作活動に入る前に、パワーポイントと学習プリントを用いて音楽の諸要素や民謡について理解したことで、創作活動にスムーズに入ることができた。

☆民謡創作計画書を書かせたり、活動の中で何度か見返す時間をとったりすることで、表現したい民謡のイメージを常に班の中で共有しながら活動が進められた。

☆リズムパターンを3パターンに限定したことや、沖縄音階を用いて限られた音を選ぶという方法を用いたことで、難しさを感じずに活動に参加することができていた。

○仮説②

創作活動で使用する楽器を工夫することで、どの生徒も苦手意識を持たず、取り組みやすくなるのではないか。

☆アルトリコーダーを使用する予定だったが、急遽電子ピアノに変更したことで、生徒は不安に思っていたようだが、鍵盤に階名を書いたシールを貼ったことで、鍵盤に馴染みのない生徒も気軽に鍵盤を弾き、自分が創作した旋律を確認することができていた。

★鍵盤の場所は分かっても、自分が選んだリズムパターン通りに弾くことが難しい生徒も多くいて、弾ける生徒に代わりに弾いてもらっていたり「先生、このリズムパターンを手拍子で叩いてください」と、リズムの確認をしたりする生徒も多くいた。

★2つの班で1台の電子ピアノを使用していたことから、複数の生徒が電子ピアノに集まってしまい活動の効率が悪くなることもあった。電子ピアノを使うタイミングを班ごとにずらすなど工夫が必要だったと思う。

○仮説③

創作した民謡の発表会を行い、他の班の作品を味わって鑑賞し多様な価値観に触れることで、鑑賞の記録(感想)を記述する際に音楽の諸要素に触れて記録するなど、これまでよりも豊かに表現できるのではないか。

☆創作活動に入る前に、民謡の鑑賞を音楽の諸要素に着目して行うことで、各諸要素の意味や諸要素同士の関わりについて考えることができた。その上で発表会を行い、他の班の発表を鑑賞する中で、生徒の感想の中に「活発な感じの曲想が印象的だった」や「最後に向かうにつれて強弱の変化がみられた」という風に、音楽の諸要素に触れて記述する生徒が多く見られた。

☆発表会の時だけでなく、その後、箏曲「六段の調」の鑑賞を行い、鑑賞の記録を書く際にも、箏の音色や雰囲気のみならず、曲想の変化や序破急の雰囲気を感じ取るなど、これまでよりも多様な言葉を使い、表現しようとする生徒の姿が見られ、変容を感じ取ることができた。

★発表に向けての準備時間に限りがあり、生徒が自信を持って発表するまでに至らず、恥ずかしがってしまう生徒も多かった。

まとめ ～今回の研究を通して～

これまで私は、あまり積極的に民謡を題材にした授業を行っていなかった。苦手意識があり、敬遠してしまうこともあった。

音楽科の第1目標でもある「生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる」という言葉を改めて振り返った時に、愛好する音楽とは、自分が好んで聴く音楽のみならず、様々なジャンル、目的を持って作られた音楽すべてを指すのではないか。また、それらのルーツを知り、それぞれのよさや美しさを伝えていくことが、音楽科の教員としての使命であると考えた。

日本民謡は、目的やテーマが先にあって作られたものではなく、仕事歌、子守唄、祭り歌などのように、昔から人々の生活に自然に存在していた音楽である。民謡という音楽が存在していたことで、人々は仕事へのやる気が沸いたり、お祝いする気持ちを共有することができたり、生活における様々な場面での支えになっていた。現代ではテレビやラジオに加え、アプリやインターネットを使って簡単に自分が好きな曲を選び、好きな時に聴くことができる。時代やジャンルは人それぞれ違うものの、音楽は昔から常に人々の生活の側にあり、聴く人の支えになっていることは変わらないということを、民謡の授業を通して生徒に感じ取ってほしいと考えた。

だが、いざ授業を計画するとなると自分の勉強不足を痛感した。まずは自身が民謡の魅力を理解するところから始まった。さらにそれを生徒に理解させ、創作を楽しみながら行い、発表会も形にしたいと思うと悩みどころが膨らんだ。特に、創作活動の中で旋律を五線に記譜するところで、どうしても時間がかかってしまうということに悩んでいた。研究授業を行った時に、授業の目標は「班で表現したい民謡のイメージを旋律にする」といったことだったが、指導主事からの「今回の授業が終わった時に、生徒の中には記譜を正しくすることで頭がいっぱいだと思う。教師はどうしても完成形を求めてしまうが、この授業で生徒に何を身につけさせたいかを最優先に考え、記譜も五線に書くことにこだわらず、リズム譜でもいいのではないか」というアドバイスをもらい、自分の課題に気付いた。生徒は班員同士で教え合ったり、意見を出し合ったりしながら創作活動を進めているのに、五線に記譜をする活動になった途端個人の活動になり、難しさを感じているようだった。アドバイスを受けて、記譜はリズム譜に階名を書くといった形に簡素化し、その分創作した旋律に曲想をつけ、よりイメージに近い民謡となるように、班員同士で話し合う時間をかけられるようにした。他のクラスでそのような形に変えたところ、旋律をイメージに近づけていく活動に時間が取れ、旋律が形になっていく過程で生徒が活発に活動している様子を見ることができた。

今回の授業にかかわらず、時間数に対して学習内容が多すぎて時間が足りなくなるということが多かったが、前述したように「この授業で生徒にどんな力を身につけさせたいか」ということが授業を計画する上で最も大切なことであることを忘れないようにしようと思った。限られた授業時数の中で、3年間の見通しを持って、授業や指導の計画を立てることの重要性を痛感した。

また、本研究では、新学習指導要領にも提示されている「音楽科、芸術家（音楽）においては、音楽のよさや楽しさを感じ取るとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりすること」という部分にも着目した。民謡の分類やリズムパターンの選択、創作旋律への音楽記号づけなどの活動時、「なぜそれを選んだのか」「それを選ぶことで音楽的にどのような効果があるか」を考えさせることを意識し、発表時にそれを他の班に伝えられるようにした。思いや意図を持つことの大切さを繰り返し生徒に伝えることで、生徒の中には「もっと活発な感じの曲にしたい」「祭りの華やかさを表現するにはどのように工夫したらよいのだろう？」といった発言も聞かれ、より感性を働かせる活動に近づけることができたと感じた。

学 習 指 導 案

座間市立東中学校
指導者 柴原 香里

1. 日時 令和3年1月27日(水) 3校時(10:55～11:45)
2. 学年・組・場所 第1学年2組(男子17名 女子16名 計33名) 第2音楽室
3. 題材名 我が国の伝統音楽に親しみ、よさや美しさを生かして音楽表現をしよう

4. 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領第2章第5節音楽第1学年の目標及び内容[第1学年]2内容B鑑賞ア「鑑賞にかかわる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。(生活や社会における音楽の意味や役割)」を受け、民謡の魅力とその役割について理解することに加え、A表現(3)「創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること」を受け、民謡の特徴と音楽を形づくっている要素を理解しながらイメージしたものを旋律に表すことをねらいとしている。[共通事項]は、音楽を形づくっている要素のうち、音色、リズム、速度、旋律、強弱について学習していく。

(2) 生徒観

意欲があり活発な生徒が多く、挙手発言も多い。話し合い活動や学び合いについても、他教科や行事での取り組みで行っており、積極的に参加できる生徒が多い。歌唱や器楽(アルトリコーダー、クラシックギター)にも意欲的に取り組んでいた。創作については、リズムパターンを使った創作と、日本の抑揚を生かし、ミ、ソ、ラの3音を使っての創作活動を行ったが、音符や休符についての基本的な知識や、記譜法については馴染みが薄く、全員が理解しているとはいえない状況である。

(3) 指導観

民謡に関心をもてるように、以下の手立てを行う。

- ①音楽を形づくっている諸要素ごとにグループを分け鑑賞することで、諸要素について知覚させ、他者との協働によってその働きについて理解を深める。
- ②創作活動で用いる電子ピアノは、鍵盤の位置の理解が十分でない生徒もいることから、使用前に階名を書いたシールを鍵盤に貼る。

5. 題材の目標

- ・我が国の音楽の中の民謡に関心をもち、その特徴とともによさや美しさを味わい、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。
- ・音楽を形づくっている要素を知覚し、はやしことばなどの民謡の特徴を生かした短い旋律を創作し、グループの中で発表する。

6. 題材の評価規準

1 音楽への関心・意欲・態度	2 音楽表現の創意工夫	3 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・民謡の特徴や音楽を形づくっている諸要素に興味を持ち、鑑賞の記録を記入する活動や言葉で説明する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・民謡や音楽の諸要素について理解し、それらを生かして旋律を創作する活動に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素や民謡の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取りながら、それらを生かした音楽表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡の音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

7. 題材の指導計画および指導規準（全4時間）

時	学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	鑑賞の能力	評価規準
1	民謡の特徴や、音楽を形づくっている諸要素について知り、感受したことを他者と共有する。		○	・	民謡を鑑賞し、音楽の諸要素について知覚し、よさについて自分なりの考えを持っている。 (工) (学習プリント①) 民謡の特徴に関心を持ち、曲想と音楽を形づくっている諸要素を感受しながらよさを味わって聴いている。 (鑑) (観察・学習プリント①)
2 (本時)	音楽の諸要素や、民謡の音階などの特徴を用いて旋律を創作する。		○		音楽の諸要素や民謡の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取りながら、旋律をつくる、言語表現するなどの音楽表現ができる。(工) (観察・学習プリント②)
3	旋律を完成させ、電子ピアノの音やはやしことばを入れ、グループで練習する。	・	○		班ごとに協働しながら創作活動することに主体的に取り組もうとしている。(関) (観察) 表現したいイメージや、どのような民謡を創作したいかについて自分なりの思いや意図を持っている。 (工) (観察・学習プリント②)
4	グループで創作した作品を発表するとともに、他のグループの作品に触れる。	○		○	民謡の特徴を生かした音楽表現を工夫する活動に、主体的・協働的に取り組んでいる。(関) (観察) 他者の作品に触れ、旋律の構成や工夫した点を理解するとともに、改め

					て民謡のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑) (学習プリント③)
--	--	--	--	--	------------------------------------

8. 本時の指導(2/4)

(1)目標 音楽の諸要素や、民謡の音階などの特徴を生かして旋律をつくることができる。

(2)実現状況を判断する際の具体的な生徒の姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する(C)と判断した生徒への具体的な手だて
音楽表現の創意工夫	音楽の諸要素や民謡の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取りながら、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	音楽の諸要素や民謡の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取りながら、旋律をつくる、言語表現するなどの音楽表現ができる。	まず、民謡の音階をヒントにして、音を選び旋律をつくることから行い、比較的取り組みやすい諸要素に着目し、できるだけイメージを持って旋律づくりができるように支援する。

(3)展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価(観点・場面・方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前回の内容の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回回収したプリントを返却し、音楽の諸要素や民謡の特徴を復習し、本時の内容を理解させる。 	
	音楽の諸要素や民謡の特徴を生かして、創作をしよう		
展開	<ul style="list-style-type: none"> 4人班で、表現したい民謡のイメージを話し合い、計画書に記入する。 自分が担当する4小節分の創作をする。 班の中で4人分の旋律を持ち寄り、演奏順を決める。 4小節をつなげて五線紙に記入し、速度、強弱、はやしことばを入れる場所を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しく感じ過ぎないように、あらかじめ選択肢を提示し、選びながらイメージを膨らませる活動に全員が参加できるようにする。 リズムパターンを選ぶ際、表現したいイメージに沿って選ばせるようにする。 計画書に基づいて、表現したい民謡のイメージに近づけられるよう声かけを行う。 書き込むだけでなく、電子ピアノで演奏したりはやしことばを言いながら、活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素や民謡の特徴を知覚し、その雰囲気を感じ取りながら、旋律をつくる、言語表現するなどの音楽表現ができる。(工) (観察・ワークシート) 【努力を要する(C)と判断した生徒への手だて】 民謡の音階をヒントにして、音を選び旋律をつくることから行い、比較的取り組みやすい諸要素に着目し、できるだけイメージを持って旋律づくりができるように支援する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントや自己評価カードで、学習の振り返りと次回への見通しをもつ。 	

第1学年 音楽科 年間指導計画

	題材名	題材のねらい	指導事項	〔共通事項〕	教材名	時数
1学期	新しい仲間とともに、明るい歌声を響かせよう	●歌詞の内容や曲想を感じ取り、自分の歌声に留意しながら、新しい仲間と一緒に表現を工夫して歌う。	歌唱—ア	リズム, 旋律 リズム, 旋律, 構成, 強弱	東中学校校歌 青空へのぼろう	3
	曲想や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しよう	●アルトリコーダーの特徴を捉え、基本的な奏法を身に付け、曲想を感じ取りながら表現を工夫して演奏する。	器楽—イ 器楽—ア	音色, 旋律, テクスチャ 旋律, テクスチャ	◇しりとりの歌 ◇よろこびの歌	3
	音楽の特徴から情景を想像しよう	●音楽の特徴を、曲想や背景と関連付けて、そのよさや美しさを味わったり情景を想像したりしながら聴き、言葉で説明したり、他者と批評したりする活動をする。	鑑賞—ア、イ	音色, 旋律, 強弱, 形式・構成	◎春 —第1楽章—	3
	リズム譜を歌ったり、創ったりしよう	●四分音符、四分休符、八分音符、八分休符の動きを理解し、リズム譜に親しむ。	器楽—イ 創作—ア	リズム	リズム唱①② リズム作り	3
2学期	曲想やパートの役割を感じ取って、表現を工夫しよう	●歌詞の内容や曲想を感じ取り、へ音譜表の読み方を覚え、パートの役割や旋律の重なり方を考えながら表現を工夫して合唱する。	歌唱—ウ 歌唱—ア	音色, テクスチャ リズム, 旋律	学年合唱曲 クラス合唱曲	5
	日本の民謡を聴き、その魅力を味わおう	●日本の民謡の特徴を捉えることで、音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさを味わいながら聴く。	鑑賞—イ、ウ 創作—ア	音色, リズム, 旋律, 形式・構成 リズム, 旋律	◎日本の民謡	4
3学期	詩と音楽との関わりを感じ取ろう	●詩の内容と曲想との関わりを感じ取って、そのよさや美しさを味わいながら聴き、言葉で説明したり、他者と批評したりする活動をする。	鑑賞—ア	音色, 旋律, 強弱	◎魔王	3
	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、表現を工夫しよう	●歌詞の内容や曲想から、日本の歌のもつ情緒を感じ取り、情景を思い浮かべながら、表現を工夫して表情豊かに歌う。	歌唱—ア、ウ	旋律, 強弱	赤とんぼ	3
	箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう	●箏曲の特徴と背景とのかかわりを捉えることで、音楽の多様性を感じ取り、そのよさや美しさ、音色を味わいながら聴く。 ●箏の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏する。	鑑賞—イ、ウ 器楽—イ	音色, 速度, 旋律 音色, 旋律	◎六段の調べ さくらさくら	3

※新型コロナウイルス蔓延における授業内容の変更に伴い、年間の計画を変更し、内容を入れ替えて行いました。

目標 []について知り、音楽の[]を感じながら聴こう

音楽をつくっている

- []…強い、弱い
- []…ゆったりした感じ、元気な感じ、楽しい
- []…跳ねるようなリズム、同じリズムの繰り返し
- []…優しい音、軽やかな音
- []…曲の雰囲気などが変わったところ
- []…ゆったりしている、歩く位のはやさ、速い、遅い

☆民謡ならではの特徴

①

・・・歌詞などで、歌詞の本文と離れて、歌いだしの部分や中間・終わりに調子をとるために入れる言葉。(例)ヨイヨイヨイ、ドッコイショなど

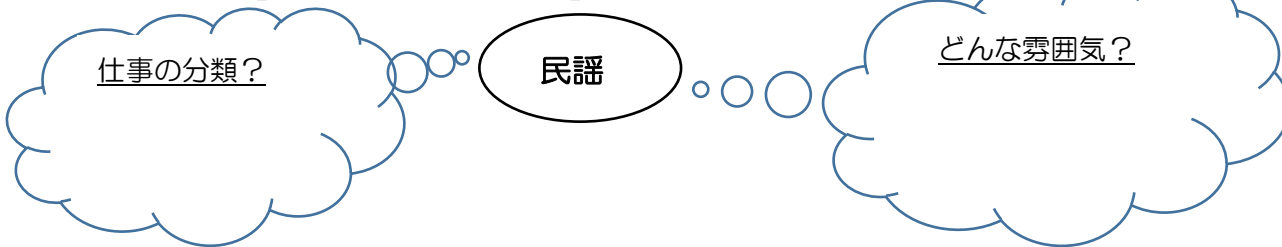
②音階

♪ 民謡を[]に気をつけて聴いてみよう ♪

自分の班で聴きとる諸要素→

民謡の名前	気づいたこと(担当する諸要素にそって書く)	
<small>あわ</small> 阿波 <small>あし</small> よしこの節	自分	
	班	
<small>こんびらふね</small> 金毘羅船 <small>ふね</small>	自分	
	班	

●次回は…民謡の【 】をしよう!



[授業の振り返り(音楽の諸要素について鑑賞し、学んだこと、気づいたことを書きましょう)]

目標 音楽の[]や、[]の特徴を用いて創作をしよう

[創作の手順]

- ① 班の中で、創作したい民謡のイメージ、使用するはやしことばを決める。
- ② 下の[A]、[B]、[C]のリズムパターンから一つ選び、民謡音階に含まれる音を選ぶ。
- ③ 電子ピアノで音を確認できたら、五線に記録する。
- ④ 4人班で完成した旋律を持ち寄り、より表現したいイメージにするため、演奏の順番を決める。
- ⑤ 4小節をつなげて五線に記録し、速度や強弱、はやしことばを入れる場所を考え、完成させる。

① **【私の班の民謡創作計画書】**・・・それぞれ、イメージに近いものに○をつけたり、話し合ったことを書き込みましょう。

民謡の分類	祭りの音楽	祝い歌	仕事歌	踊り歌	楽しみのための歌
どんな雰囲気にするか	元気な感じ	やる気になる感じ		軽やかな感じ	静かな感じ
はやしことば	(例) チョイチョイ、ヨイヨイヨイ、ドッコイショ、シュラシュシュ、ナンチャラホイ				
速度や強弱で、工夫したいこと	(例) 始めをゆっくり、途中から徐々に強くし最後を速く、一番強くすることで、スピード感を表現した。				

②演奏順を決め、リズムパターンを考えよう。

[リズムパターン]

[A]

[B]

[C]

③選んだリズムパターンに民謡音階から選んだ音をつける。

--

④班員がそれぞれ考えた旋律を持ち寄り、演奏順を決めよう。

--

⑤ 上に書いた楽譜の中に、班で考えた、**強弱** **速度** **はやしことば**をそれぞれ書きこもう。

[授業の振り返り(班で民謡の創作をして、学んだこと、気づいたことを書きましょう)]

♪民謡創作 作品発表会♪

A、B、Cで評価をします

()年 ()組 名前()

班	曲のま とまり	表現力	工夫	よかったところ、もっとこうすればよいと思ったこと

[発表会を終えて]